

事業活動実績報告書

施設名	新小岩ちぐさ幼稚園
教育理念	大地に根を張る“千の草”のように、どんな環境にもめげずに、逞しくしなやかに生き抜く力。 夢と希望をもって努力し、豊かな人生を歩める力を育てる教育。
事業の区分 (5領域)	健康・人間関係・環境・言葉・表現
1 事業名	SDGsへの意識の芽生え
2 実施期間	令和 6年 4月 1日 ～ 令和 7年 3月 31日

3 取組概要	(取組日) 令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	【自然体験】 区の貸し出し農園を利用し、野菜の栽培を行った。ジャガイモ、枝豆、サツマイモ、トマト、カブ等を栽培し、収穫後は自分達で調理して食べたり、自宅に持ち帰った。年間で畝作り1回、苗植え4回、雑草抜き2回、収穫4回の活動を行った。畝作りでは保護者の手伝いがあったり、収穫時には連携小規模園が参加したりと、家庭や地域の連携を行った。	
	(取組日) 令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	【募金活動】 絵本や紙芝居、劇によって世界の子どもたちについての状況を伝えた。また、子どもたち自身が、運動会や発表会等のイベントで募金活動をした。募金箱を自分たちで作ったり、募金集め方法や台詞を考えた。年少組の知識の補足をするため、豆まき等の行事で不均等な量の配分から皆で分け合うという活動を繰り返した。	
	(取組日) 令和7年1月1日 ～ 令和7年2月28日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	【ボランティアの方からの学び】 年長組が、募金で集めたお金を、ユニセフハウスへ届けに行った。また、ハウスでは、世界の子どもたちについてのDVDを見たり、ボランティアの係の方々から、世界の子どもたちについて学び、日本とアフリカの子の体重の違いや毎日運ぶ水瓶の大変さ、銃の重さを体験した。ハウスでの体験を補足するため、後日、募金についてクラスで話し合った。	
	(取組日) 令和7年1月1日 ～ 令和7年2月28日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	【生き物についての学び】 博物館で生物の多様性を学び、水族館で海の生き物の生態やゴミ問題を学んだ。年少組の参加はできなかったが、幼稚園に帰ってきた年長組からの発表を聞く時間を設けた。事前に図鑑や絵本で下調べを行い、各グループが館内でオリエンテーリング風に目的の展示を見つけていくことで、自発的な学びになった。	

3 取組概要	(取組日) 令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【木に親しむ活動】 間伐材を使用して工作を行うイベントを行ったり、色々な木材で遊んだりノコギリ体験を行った。また、地域の子育て世帯にもイベントに参加してもらい、地域全体の自然環境教育にも取り組んだ。イベント以外でも、公園への落ち葉拾いや、芝生探検等の木に関連する生き物や副産物についての興味を引くようにした。	
	(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【研修の取り組み】 継続的にSDGsの取り組みができるよう、職員の研修を実施した。今年は、SDGsをマネジメントする研修、自然環境に関する研修と身体を作る研修を中心に教員を派遣し、SDGs教育のスキル向上を行った。	
	(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【リサイクル活動】 年間を通して、自分が使わなくなった玩具や服を東南アジアの国々へ届けるための活動を行った。集められた玩具や服を国際子供友好会等のNPO団体へ寄付をし、どのように使われていくかを劇にして披露した。また、木製等の環境に配慮した玩具をお礼に購入し、リサイクルの意識や環境を考えた素材等の見識を高めるきっかけにした。	
	(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【健康を考える】 募金やリサイクルの活動を通じて、子どもたち自ら「他の人のためになるには自分が健康でなくてはいけない」という気づきに達し、食生活や早寝早起きを心掛けるようになった。また、健康には縄跳びが一番という方向で子どもたちの話がまとまったことから、縄跳びの専門家を招き、縄跳びについて学んだ。毎日真剣に縄跳びに取り組んだ。	
	(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日		
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの	

効果検証報告書

施設名	新小岩ちぐさ幼稚園
教育理念	大地に根を張る“千の草”のように、どんな環境にもめげずに、逞しくしなやかに生き抜く力。夢と希望をもって努力し、豊かな人生を歩める力を育てる教育。

事業の区分(5領域)	健康・人間関係・環境・言葉・表現
1 事業名	SDGsへの意識の芽生え
2 事業概要	・持続可能な社会の実現を担う子どもたちへ、SDGs教育、とりわけゴミの削減やリサイクルに関する意識を芽生えさせ、さらに貧困等の高度な分野への理解に取り組む。 ・従来行ってきた日々の活動に、インパクトで効果的な事業を組み込み、継続的に取り組みつつも効果の拡大をねらう。 ・昨年からの蓄積に加え、葛飾SDGs宣言企業との連携を模索し、地域との連携を行う。また、地域の子育て世帯をも巻き込み、実質的な対象を広げるよう努める。

計画時	3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 <人的資源> ・SDGsコンサル受講済・木育インストラクター2名・自然環境研修受講済3名 <環境資源> ・千葉自然環境認証園連携・We Support UNICEF賞受賞・葛飾SDGs宣言企業・子育てひろば「すくすくひろば」設置園 ・木材インストラクター監督
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 昨年から引き続き研修に力を入れたことで、教員のスキルが上がり、子どもたちが楽しみながら取り組めることが増えてきた。また、理解力も飛躍的に上がり、世界の子どもたちについてや、自分のことについて、子どもなりの意見を持つようになった。やはり、教員が複数名で同じ方向性のある研修に取り組むことで、園全体がSDGsに取り組むようになり、それが直に子供たちの興味という形で表れたと考える。研修については、より高い質を求めて続けていきたいと思う。 区民農園や連携園の存在は、近くて簡単に自然体験が出来る利点があるが、抽選があったりと資源として安定がしなかった。葛飾SDGS宣言では、同様の企業からのオファーがあったり、葛飾のラジオから取材があったりと、SDGsの連携の広がりを感じる面があり、子どもたちの学びに繋がる可能性を感じた。直ぐには効果が出ないかも知れないが、機会を逃さないように内外に発信していきたいと思う。

計画時	4 事業のねらい	・中学や高校へと進学するにつれ、各教育機関が強化しているSDGs教育。語学教育にしろ科学知識にしろ自然体験にしろ、将来を担う機関が必ず子どもたちへ伝えたい目標、その学問を学ぶ際の目標の一つとなっている。本事業では、世界共通で全世界一致の見解で、しかし2030年までに全てのターゲットで達成が見えないこの問題について、遊びを通すことで幼児期から体感し、将来子どもたちが自分で考えなくてはならない時に、経験により考えられる力を身につけることを目標とする。 ・活動を通じて、幼児期に育てて欲しい10の姿をほぼ全て培うことができるように、それぞれの活動を関連付けて計画する意識をし、例えば、SDGsアイコン等から標識への関心へつながるような配慮する等、詰込み的受動的にならないよう気をつけて、楽しく主体的に10の姿を養う。 ・環境配慮玩具や木製玩具、自然物工作等の在籍する園児のための資源を、地域の子育て世帯のために利用できるものは利用する。また、地域の同じSDGs宣言企業との取り組みを行う。この2点から、園の垣根を越え、地域と子育て世帯へのSDGs普及を見込む。 ・ゆくゆくは自園のみの資源で事業の持続が可能になるように、引き続き人的物的資源の質の向上に取り組み、カリキュラムの内容を改善して教育計画を確立するように、研修や教員の自発的な発案による挑戦的試験的行事の取り込みを行う。また、それらを経験した園児保護者が、小学校以降のSDGs教育に中心となって協力できるような理解を促す。
-----	----------	---

事業後	4)についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 SDGsという将来に向けた種まきとしては、効果について検証し難い面もあるが、今年も小学校教育以降にも論じられることが多々見受けられたため、事業目的としては適切、もしくは先進的な目標と考える。ただ、年長児に関しては予想以上に環境問題について興味を示したので、SDGsのどの部分かまで詳細に目標として設定しても良かった。ねらいに沿った活動を計画したが、SDGs自体が多種多様な目標を持っており、子どもたちの関心の方向性によって、無限に様々な分野へ飛んでいってしまうため、指標は変わらないが、取り組み内容や環境構成が変化しやすい目標と感じた。しかし、他者や環境を考えることを常に念頭におくことを忘れなければ、10の姿を育む題材として適切と思えた。地域の子育て支援については、玩具の目的やイベントの趣旨などを十分に説明できたので、保護者を含めて十分に有意義であった。今年のねらいには、小学校との連携を盛り込んでいなかったが、SDGs教育の見本として、連携先として、協力体制を作れたら良いと感じたので、幼小連携もねらいに入れるべきであったと思う。SDGs教育には、教師の知識が必要で、研修により十分な効果が得られたことと、同じ方向を向いて保育ができることから、教師のスキルアップは継続しつつ、より高い段階へ引き上げるよう内容を精査してねらいに盛り込むようにしたい。
5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ・募金活動(4月～2月) ※絵本の読み聞かせを含め、年間を通じて目的をもった活動を園内外で行い、最終的にユニセフハウスに訪問し募金することで、本当に必要とされていることを行ったという実感を得る。募金活動は、子どもたちの案を取り入れて主体的に行う活動をする。 ・ゴミの削減(5月～3月) ※廃棄物を使った工作、分別指導、絵本の読み聞かせ等、年間を通して活動を行う。行事としては、プラ玩具回収と環境配慮玩具の普及(年間)、水族館での海ゴミ問題の講習(2月)、企業とのタイアップイベント(2月)を行い、ゴミについての現状を把握し考える機会を作り、使用した物に対する責任を感じられるようにする。 ・自然環境の維持 ※園児と地域子育て世帯に向けた自然工作教室(9月)、園の木製備品作り(11月)、どんぐり貯金(年間)を通して、自然物に対する親しみと、自然と共生ができるための意識を身につける。公園、畑等の身近な自然体験と絵本や図鑑による自然等、都心でも簡単にできる自然体験をする。 ・人材育成研修(8月、12月) ※自然を利用した工作や環境構成、廃棄物の遊びの利用等、実践的技術を身につける。
事業後	5)についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 ＜募金活動＞お気に入りの絵本にSDGs関連の絵本の名前があがってきたり、ユニセフの訪問を楽しみにしていたり、保護者からの募金が上がってきたことで、意識の変化を感じた。しかし、学校関係者評価では、大半が「やや評価できる」であったので、取り組みの内容をアウトプットすることも検討していきたい。 ＜ゴミの削減＞アンケートで、木の玩具等に親しみ、プラゴミ等への意識向上があがったので、取り組みとしては引き続き行って行きたい。しかし、子どもたちの意見から、リサイクルイベント等に変化することがあった。例年同じではない方が子どもたちの印象に残りやすいので、常に新しい取り組み内容に挑戦した方が良いと思った。 ＜自然環境の維持＞工作や自然体験等、普段保育と重なる部分が多いが、意識の変化から確実に頻度を上げることができた。どんぐり貯金や水族館講習の参加等も、楽しんで取り組んでいたのも、きっと将来他の園の子よりもすんなりSDGsを受け入れられると信じるので、様々な取り組みをしていきたい。 ＜人材育成＞保育計画の中に、公園散歩や家庭からの廃材工作が見受けられるようになったことや、憚ることなく節電などを呼びかけ合うようになったので、継続していきたい取り組みである。

計画時	6 環境構成	<募金活動> 昨年同様の環境を世襲しつつ、子どもたちの主体性を育むために、年長組では1枚のポスター作成に挑戦し、伝え方や表現力、協同性を育みながらも家の人などに訴えかけ、募金という目標に向け活動をする。また、年少組年中組でも、絵本による啓蒙を拡大しつつ、お買い物ごっこで、募金コーナーを設けるなどし、実際の援助にはならないが将来のための内面育成をする。 昨年同様、運動会やお遊戯会等の大きな行事で、こどもたちによる募金を行うが、子どもたちが考えた集め方などを考えていく。1月以降に何らかの形で外部への募金活動を行い、その結果を年長組が代表しユニセフハウスへ届ける。 <ゴミの削減> ・廃棄物工作や企業タイアップ、海ごみ講習、分別体験は昨年同様に維持しつつ新たな取り組みを行う。どんぐり貯金のように園児がわかりやすく目に見える形で行うように、プラごみ(マクドナルド玩具回収事業のような)回収と、その結果としての環境配慮型玩具購入をすることで、工作や企業の企画では感じ難い使う責任を感じ、遊びの工夫や規範意識を育む。回収プラ玩具は、NPO法人等(リボンプロジェクト)の玩具寄付に使う。 <自然環境の維持> ・これも昨年同様に自然物工作教室等は維持しつつも、椅子や棚のような幼稚園の備品を自ら作ることで、木製品への親しみや、自然環境を守る意思、工夫する力等を育てる。既存の制作キッドは費用が高いため、ネームプレートや畑の案山子等、なるべく身近で出来ることを中心に複数回行っていく。 ・木製玩具に触れる機会を拡大し、園児と地域の子育て世帯に提供する。ただ遊ぶ機会を増やすだけでなく、園児にはやすりがけ等のメンテナンス、地域には、玩具のリサイクル等の啓蒙を、昨年研修を受けた教員を中心に、遊びに付き添いながら行っていく。 <人材育成> ・昨年の研修により、大方SDGsを論理的に理解することができたので、より実践的、かつ専門性を高める人材育成に力を入れる。
事業後	6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 <募金活動> 恒例になった募金活動は、どのように募金を集めるか、ポスターを作る等、子どもたちが主体となって進めるようになったことで、募金活動や募金箱、ユニセフ訪問等は維持していく方がよい。絵本を毎月ピックアップして読み聞かせをしたり本棚に入れたりしていたが、期末のアンケートでは貸出しの希望も出ていたので対応したい。絵本や募金箱だけではなく、園児の持ち物の中でもSDGsを意識させる工夫を考えていきたい。 <ゴミの削減> 環境配慮玩具の配置や分別ゴミ箱、自由な廃材工作は、ゴミ問題を考える基礎を築いていると思う。反面、子どもの思い出に残りやすいのが、水族館・博物館講習やリサイクル回収等の行事中心となりがちなので、もっと普段から意識できるように標識や掲示物等も充実させていきたい。 <自然環境の維持> 畑がある状況は良いが、区民農園は抽選なので、対策は必要である。行事後に自然物の工作が自由にできるように、園庭に集めた素材を小分けにしておく場所を設けたりと、途中で環境の整え方に変更をつけた。棚や玩具のメンテナンスも、自分たちの使うものとして良い影響を与えている。 <人材育成> どうしても研修がトップダウンになってしまうので、自発的に研修に取り組める環境を整えたい。

7 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ・募金活動を通じて、自分以外の他者、自分たち以外の他の地域という概念を知り関わることで、自分の存在意義を感じ役に立つ喜びを知る。また他の地域を知ること、自然や生命の尊重、規範意識等を身につける。自分たちの意見が反映された活動にすることで、話し合いの必要性や協調する重要さも経験し、やり遂げることへの達成感も経験する。 ・工作に使われる材料に、何故廃材が使われるのかを知り、ちょっとした工夫や方法の変化で出来ることがあると学び、普段の遊びや生活で、今あるものを工夫して楽しむ、生活するようになる。 ・ゴミを資源として捉える為の体験をし、その手段を学んでいく段階で、社会でゴミの削減に取り組んでいること、公共のルールがあること、自分たちができることが役に立つこと等を知る。また、それらの行動の結果、自分たちの夢が叶う明るい未来を想像できるようになり、見通す力をつけ、普段の生活の中で、この後どうなるかを考えて行動しようとする。 ・どんぐり等の素材での工作を通じ、自然物を利用した工夫や豊かな発想、表現力を育み、自然への親しみを持つようになる。また、身近で有用的な備品の作成により、生活の中で活用されている自然物やエネルギーの大切さに気がつき、大切に扱おうとする。 ・古くからある「もったいない」が、規範意識だけではなく、理由があつてのことだと理解し、自分で考えて行動できるようになる。工作や分別活動で、再利用、削減、不使用等の具体的行動例を知り、物作りや行動での創意工夫する力を育みながら、自立心や協同性を培うことで、問題に対する解決を様々な面から考え、将来多くの人と協力して行動できる基盤になる。
事業後 7についての 効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・世界の国々の子たちについて、自分たちと大きく異なった状況を理解するようになり、募金やリサイクル等の活動目的を把握し主体的に取り組めるようになった。しかし、関連付けて意識することは難しく、雑な玩具の扱いや給食の食べ残し等、不随する様々なことを自分で気づかせるようにしていきたい。 ・ゴミの分別や廃材の行方、資源についての理解は進んだ。身近なものを利用して遊べる力もついてきたと思うので、ゴミ問題の啓蒙指導から、より主体的な発想ができる環境整備に力を入れていきたい。畑作業でも、作った案山子を収穫後にどう利用するか等話をあっている様子があった。 ・どんぐり貯金や縄跳びへの挑戦等、友達と誘い合って取り組むものも増え、協調性や仲間意識、見通す力などが強まったと思う。 ・ユニセフや水族館博物館での話しや、新しい木の玩具等、環境問題を意識するきっかけになったと思う。節電や節水の意識も広がり、なぜそうしなければいけないのかを把握できたことと思う。
8 効果検証 総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて SDGs的な考えの基礎を築くため、世界情勢や他者を気遣う心を伝え、遊びや経験を中心に取り組んできた結果、職員や園児のみならず保護者にも考えが広がってきていると感じる。物を大切にすることやゴミなのか使えるものなのか判断する心、玩具がなくても楽しく遊べる創造性や、プラスチック玩具が捨てられないという知識など、ゴミに関する分野だけでも様々な知識や意識をもたらすことができたと思う。印象的なことといえば、子どもたちが自分たちで世界の子どもたちを助けるための話し合いをしているときに、マンダラートのような表を作り出し、自分たちが健康でなければ他の国の人を助けられないと結論づけ、健康に気を使っていたことである。思いもよらない方向へ向かった話しであるが、SDGsの分野としては「すべての人に健康と福祉を」とあるので、その様子を見守ることとなった。結果、縄跳びが流行りだしたが、そういったことも、主体性を大切にしつつ取り組める課題として適しているのではと感じた。戦争や貧困、エネルギー等広く取り扱った事業で、かつ、小学校教育以降も継続的に行うことで効果を発揮するものと思うので、効果の検証は難しいが、将来グローバルな視野で物事を考えられるだけの基礎になっていることを望む。 3年間の後にも、自園の力で継続できるように取り組んでいけるように、職員の研修を早期に完成したいと思う。分別や募金は、古くから園で取り組んできた内容であるが、職員に対しても昔からの行事だからといって強制するより、様々な研修により、自分たちで気が付いて進んで取り組んでいけると良いと感じた。今回、研修では複数の職員がそれぞれの分野を考え参加したことで、職員が同じ方向性をもって動きだせたと思う。今後とも研修を強化していきたい。 取り組みの協力という点で、同じ取り組みをする仲間が少ないと感じている。小学校や地域との連携等を増やしていければと考えている。企業連携や連携園との協力が比較的簡単なのは、窓口も1人で、打ち合わせも大体1回であるためと思う。ただ、小学校や地域との連携は、教育効果を検証するうえでも重要になってくと思うので、取り組みを強化していきたい。